



YMI WORLD

「強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う」

ワイズメンスクラブ国際協会

2025年10月



YMIは、YMCAの「チェンジェージェント」を継続的に支援しています

ワイズメンスクラブ国際協会は、10年以上にわたり、アレキサンダーサポート基金（ASF）を通じて、YMCAのチェンジェージェントプログラムを誇りを持って支援してきました。今月は、ASFに焦点を当て、地域社会の未来を形作る若いリーダーを育成し、力づけるこの取り組みへの継続的な貢献を称える機会とさせていただきます。

目次

国際会長メッセージ	3
エドワード・オン 国際会長	
国際本部ニュース	5
ジョース・ヴァルギース 国際書記長	
2026/28年 IYR選挙	6
国際ユース委員会 2025/26	
アレキサンダーサポート基金	7
アイヤッパン・K・N ASF国際事業主任	
YMCAチェンジエージェントプログラム	9
マリア・クリスティーナ・サルダリアガ 世界YMCA同盟プログラムマネージャー	
ソーシャルメディアツールとインパクトコミュニケーション	11
コシー・マシュウ - 元 YMI ワールド編集長 (2015-24)	
アフリカ地域ニュース	13
ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者	
アジア太平洋地域ニュース	14
利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者	
ヨーロッパ地域ニュース	15
ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者	
インド地域ニュース	17
ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者	
韓国地域ニュース	20
チュン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者	
米国地域ニュース	22
メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者	
国連デー - 10月	23
ロイス・マラセリー 国連プロジェクト委員会メンバー	
キリスト教強調：聖書とマーク・トウェイン！	24
ビリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任	



フレディズムとYMI

サービスリーダーシップにおいて人材を第一に考える

エドワード・K・W・オン 国際会長、YMIワールド編集長

フレディズムとは何ですか？

フレディズムとは、リーダーシップの第一の目的は、人間の生活の質を高めることであり、その他すべては、これを中心に展開するという信念に基づくリーダーシップ哲学です。この概念は、ナイジェリアのリーダーシップ研究者であり実践者であるジョセフ・チネニエゼ・イベクウェによって提唱されました。イベクウェは、1995年にリーダーシップ&教育開発財団（FLED）を設立し、1999年にはアフリカにおける変革的リーダーの育成と指導を専門とするFLED国際リーダーシップ研究所を設立しました。人間中心で倫理に基づいたリーダーシップという文脈の中で、フレディズムの哲学が生まれました。イベクウェは、リーダーシップの究極の目的は、人間の生活を向上させることであるという考えについて、多くの著作や講演を行っています。

フレディズムは、多くの分野で幅広く応用されていますが、特に奉仕と地域社会への影響が原動力となるボランティア活動や非政府活動の分野では、その価値が特に高まります。だからこそ、地域社会への奉仕に尽力する世界的な運動団体であるワイズメンクラブ国際協会（YMI）にとって、フレディズムは特に重要な意味を持つのです。

YMIの使命は、人々に根ざし、人々をエンパワーし、高めることです。私たちのクラブは、しばしば疎外されたコミュニティと資源の架け橋となり、社会変革の提唱者となり、エンパワーメントの触媒となります。しかし、コミュニティのニーズ、限られた資源、そして多様なステークホルダーという複雑な状況を乗り越えていくには、意思決定の中心に人々を据える哲学が必要です。まさにこれこそがフレディズムが提供するものです。リーダーシップが真の受益者、つまり私たちが奉仕する人々とコミュニティに焦点を合わせ続けることで、影響力を強化する枠組みです。この人間中心のアプローチは、単に適切であるだけでなく、不可欠です。

• 人間中心のアプローチ

経済指標や制度指標は重要ですが、数字の背後にある現実の生活を決して覆い隠すべきではありません。フレディズムは、人間の幸福を最優先し、プログラムや取り組みが地域社会のニーズと願望に真に応えるものであることを保証することを奨励しています。

• 共感と思いやり

ボランティアやNGOのリーダーは、共感を体現しなければなりません。感情としてだけでなく、リーダーシップの実践としてです。支援する人々の実体験を理解することで、より迅速かつ敬意を払い、効果的な介入が可能になります。思いやりは、信頼とパートナーシップを築き、私たちの運動と地域社会の絆を強めます。

• コミュニティへの焦点とエンパワーメント

フレディズムは、コミュニティへの依存を促すのではなく、コミュニティが自らの課題を解決できるようにすることを重視します。リーダーとしての私たちの役割は、コミュニティの能力を高め、支援し、育成することです。そうすることで、私たちの直接的な関与が終了した後も、コミュニティが長期にわたって進歩を持続できるように支援します。

• 協調的リーダーシップ

ボランティアセクターでは、コラボレーションが不可欠です。フレディズムが提唱する分散型リーダーシップ（権限、責任、意思決定の共有）は、YMIが基盤とするチームワークとパートナーシップと完全に一致しています。チームやコミュニティメンバーが主体的に活動できるよう支援することで、効果は、倍増します。

• 全体論的思考

私たちの活動におけるあらゆる決定は、社会、経済、文化の各層に波及効果をもたらします。フレディズムの包括的なアプローチは、こうした広範な影響を慎重に考慮し、人間の尊厳と環境の両方を尊重する持続可能な解決策を推進することを促しています。

• 影響力と誠実さをもってリーダーシップを発揮する

イエスの愛の教えに基づく私たちの運動における真のリーダーシップの尺度は、人々の生活にどれだけ目に見える前向きな変化をもたらすかです。フレディズムは、リーダーシップとは個人の認知や組織の成長だけでなく、人間の尊厳を高め、繁栄させることにあることを私たちに思い出させてくれます。

フレディスト指導者への呼びかけ

YMIのすべてのリーダーの皆さんに、フレディズムの導入を検討していただきたいと思います。人々を中心とし、共感を実践し、コミュニティに力を与え、協働し、包括的に考えましょう。そうすることで、あなたのリーダーシップは、目先のニーズに応えるだけでなく、永続的な変化を促すものとなるでしょう。フレディズムを受け入れることで、倫理的で包摂的、そして変革をもたらすリーダーシップを育み、より強固なYMIを築くだけでなく、よりレジリエンスの高いコミュニティを築くことができます。

国際本部ニュース

ジョース・ヴァルギース
国際書記長



9月を振り返り、国際本部（IHQ）は、事業主任、委員会、タスクフォースの多くの会議に感謝の意を表し、エドワード国際会長の2025/26チームのZoom会議の要請に熱心に応じてくれたリーダーたちに感謝したいと思います。

IHQ はまた、9月20日の世界クリーンアップデーに Week4Waste (W4W) 活動に参加し、環境管理の意識を高め、コミュニティの責任を育むことに貢献したすべてのクラブに感謝の意を表します。これは、戦略 2032 の重要な要素です。

毎年9月から12月8日、ワイズメンズクラブの創始者ポール・ウィリアム・アレキサンダーの誕生日である創立記念日まで実施される「100日間会員増強キャンペーン」への参加を、クラブの皆様にご引き続き呼びかけています。このキャンペーンは、世界中のクラブが会員増強と奉仕活動の拡大に努め、YMIファミリーの成長に注力することを奨励するものです。

最近、私は、韓国西区にあるテジョン（大田）SASAワイズメンズクラブの設立式典に出席し、キャンペーンの成功を祝う機会を得ました。この式典は、チャンウォン（昌原）で開催された韓国地域大会の前夜に開催され、全国各地のクラブから900人の代表者が集まりました。この機会に、区理事たちは、普及活動の推進とYMIの国際プログラムへの支援への決意を新たにしました。

ガザの人々との連帯を示すため、国際会長裁量救済基金から5,000米ドルが世界YMCA同盟のガザYMCA支援アピールに寄付され、重要な地域プログラムと人道的救援活動を支援しました。

10月に向けて、アレキサンダーサポート基金（旧アレキサンダー奨学基金）に注目が集まる中、各クラブは、都市YMCAおよび各国YMCA同盟への支援方法を模索することが推奨されています。基金の対象範囲が拡大され、職員の奨学金にとどまらず、両組織の使命と目的に合致するYMCAのプログラムやプロジェクトにも資金が提供されるようになりました。

10月初旬、エドワード国際会長と妻アンナは、ドバイでの国際大会の現地視察から戻ったジョース国際書記長に同行し、IHQを訪問します。IHQのスタッフとジュネーブYサービスクラブのメンバーから温かく迎えられられることでしょう。

国際大会26の登録は、11月15日から開始され、早期割引価格は、460米ドルとなります。

2026/28年国際ユース代表（IYR）の応募受付は、2025年10月1日から11月15日までです。当選者は、2026年1月16日に発表されます。2026/28年国際ユース代表選挙および選挙スケジュールに関する詳細は、当協会のウェブサイトをご覧ください。<https://www.ysmen.org/iyr-application/>

IHQは、今後の展望として、2026年3月10日から13日までバリ島で国際次期区理事サミットを開催することをお知らせいたします。2025/26年度の地域会長および区理事の皆様は、カレンダーにご記入ください。詳細は、IHQオフィスを通じて参加予定の皆さんに近日中にお知らせいたします。

いつものように、ポール・ウィリアム・アレキサンダーのビジョンとワイズメンズクラブ国際協会の不朽の精神を継承し、献身的に奉仕してくださっているクラブとクラブ会員の皆様に感謝申し上げます。





アレキサンダーサポート基金

アイヤッパン・K・N

ASF国際事業主任

10月はアレキサンダーサポート基金（ASF）の強調月間です。ASFの歴史は、1954年、ミシガン州ランシングで開催されたワイズメンズクラブ国際協会国際大会に遡ります。この大会で、創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の肖像画制作のための資金が集められました。絵画制作費が高すぎると考えたアレクサンダー判事は、より安価な、著名な写真家に肖像写真を依頼することを提案しました。その結果、905米ドルの節約となり、ポール・ウィリアム・アレキサンダー奨学金基金が設立されました。1982年には、名称がアレキサンダー奨学金基金に短縮されました。2025年には、代表者立法協議会（国際議会）の決定により、ASFの略称を維持しながら、より幅広い支援対象を反映したアレキサンダーサポート基金となりました。

目的

ASFの主な目的は、YMCAとその使命を支援することです。YMCA職員および将来の職員への研修への補助金支援を継続するとともに、ASFは、現在、国、地域、そして国際レベルで、YMCA関連のより幅広いプロジェクトや取り組みを支援しています。

このより広範な解釈は、YMIとYMCAの協力関係を強化し、YMCAへの奉仕という私たちの設立目的を反映しています。ASFの支援を受けるYMCAのプロフェッショナルは、YMIの新たなクラブ設立や既存クラブの支援において、引き続き重要なパートナーとなります。

管理と割り当て

当初、ASFは、国際事業主任によって運営され、すべての献金は、IHQ（国際本部）に送金されていました。1974年に運営は、エリア（地域）に移管されました。

- 単一国エリアでは、献金の70%がエリアレベルで留保され、配分されます。
- 決定は、エリアトロイカが、ASF地域事業主任および地域YMIリエゾンと共同で行います。
- 複数の国にまたがる地域では、献金は、区レベルで保持・配分されます。配分は、区トロイカ、ASF区事業主任、区YMIリエゾンによって決定されます。
- 残りの30%の資金は、国際的な用途のためにIHQに送金され、その配分は、ASF国際事業主任および国際YMIリエゾンと協議の上、国際執行委員会(IEC)によって決定されます。
- 地域レベルまたは区レベルで正式なYMCAパートナーシップが存在しない場合は、集められた資金の100%がIHQに送金され、配分されます。このシステムは、ローカルの対応と国際的な説明責任のバランスをとっています。

資金調達の方法は、たくさんあります。各クラブは、ASFのための募金活動プロジェクトを推進することが推奨されています。部は、ASFデーを記念して募金活動を行うこともできます。「ファイン」は、楽しい収入源となり、個人からの募金も可能で、寄付者には部や区の行事で表彰されます。

2024/25年度の目標額は18,215スイスフランでしたが、集まったのはわずか9,871スイスフランで、目標を54%下回りました。ASFの強化のため、各クラブ会員には年間最低5スイスフランの寄付をお願いすることになりました。この個人寄付と、クラブおよび地域の募金活動を組み合わせることで、目標達成とYMCAプログラムへの支援拡大に貢献します。50スイスフラン以上を寄付いただいた個人またはクラブには、認定書を授与いたします。この取り組みをASF国際事業主任として導入することで、寄付者への働きかけを強化します。国際会長とASF国際事業主任は、会員一人当たり5スイスフランの基準を達成または上回った区を、国際イベントでの発表や表彰を通じて表彰します。

すべての区事業主任および地域事業主任は、任命者（区事業主任は区理事、地域事業主任は地域会長など）および業務上の上下のカウンターパートと定期的に連絡を取ることが求められます。過去の寄付動向と現在の経済状況を踏まえ、野心的でありながら達成可能な資金調達目標を設定してください。

ASFは、小規模な奨学金基金から、創設者の精神を反映し続ける包括的なYMCA支援プログラムへと成長しました。目的の拡大、新たなコミットメント、そして明確な寄付への期待に基づき、ASFはYMCAとのパートナーシップにおいて中心的な存在であり続けます。

クリックしてアレキサンダーサポート基金に寄付してください



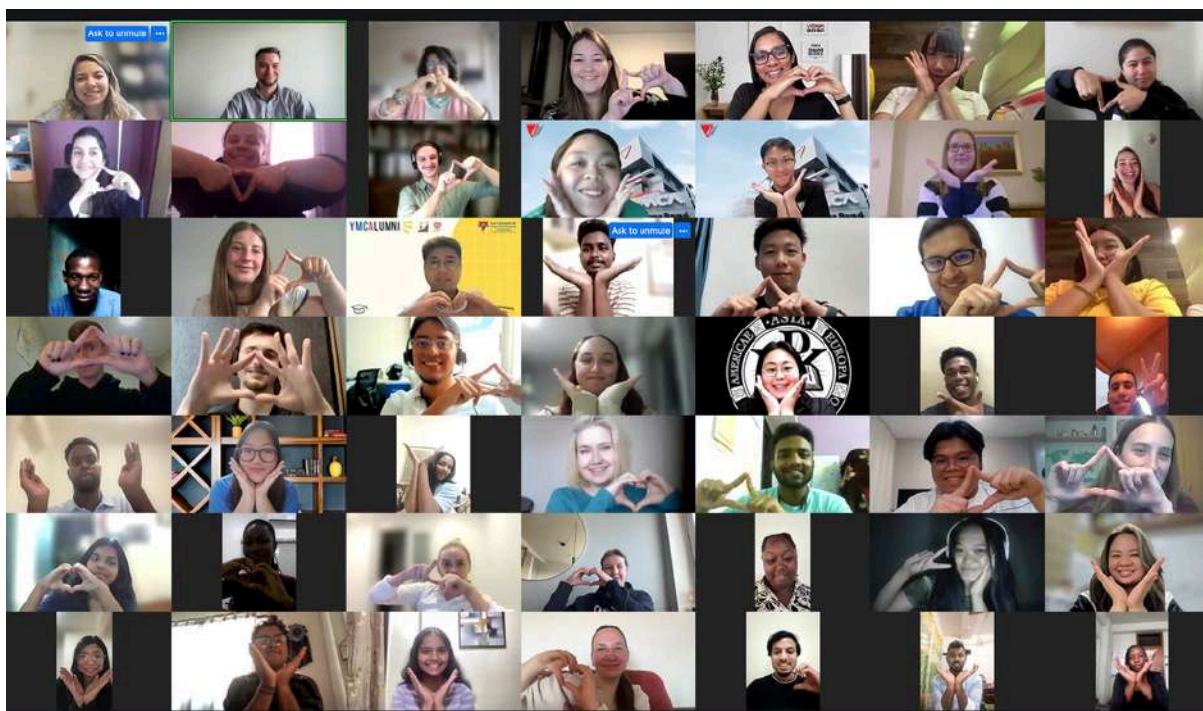
YMCA チェンジ エージェント プログラム

マリア・クリスティーナ・サルダリアガ
世界YMCA同盟プログラムマネージャー

YMCAチェンジエージェントプログラムは、地域社会、YMCA、そして世界全体の未来を形作る若いリーダーを育成するための、旗艦的な取り組みです。この取り組みの中心に立つのはワイズメンズクラブ国際協会（YMI）であり、第6期生への支援は、プログラムの影響力とリーチの拡大に大きく貢献しました。

YMIは、設立当初から、リーダーシップ育成は、意図的で、包摂的かつグローバルであるべきだという考えを掲げてきました。資金面と関係構築面の両方におけるYMIの貢献により、多様なバックグラウンドを持つ若いリーダーたちが、人生を変えるようなトレーニング、メンタリング、そしてネットワーキングの旅にアクセスできる環境が整えられてきました。アレキサンダーサポート基金を通じたYMIの支援のおかげで、チェンジエージェントプログラムは、規模だけでなく、深みにおいても成長を続け、参加者に複雑で急速に変化する状況下でリーダーシップを発揮するための準備となる経験を提供しています。

このプログラムの恩恵は、波及効果を及ぼします。チェンジエージェントは、自身の利益のためだけに訓練されているのではなく、むしろ奉仕の精神を身につけています。世界中で、このプログラムを修了したYMCAのユースたちは、地域社会に戻り、ビジョン2030とそのインパクトの柱である「持続可能な地球のために」「やりがいのある仕事と雇用環境の創造」「コミュニティー ウェルビーイング」「公正な世界の実現のために」を重視しながら、真のニーズに応える取り組みを始める意欲を燃やしています。地域社会における食料不安への取り組みからデジタルリテラシーの促進まで、チェンジエージェントは、共感に基づき、インパクトを重視したプロジェクトを企画します。YMIのコミットメントは、これらのアイデアが机上の空論ではなく、行動に移されることを保証しています。



2025年4月に開催されたチェンジエージェントプログラム第6期のオープニング集会

現在6期目を迎えたこのプログラムは、新たな活力と創造性を見せています。50カ国以上から集まった85名のチェンジエージェントが、YMCAの歴史とガバナンス、ビジョン2030、個人の変革、システム変革、運動の構築といった主要分野にわたる活動に取り組んでいます。10月には、資金調達とパートナーシップに関するモジュールを受講します。各モジュールでは、参加者に動画、資料、演習、課題といった形で厳選されたコンテンツが提供されます。

今期の特徴は、「リバーズ・クラスルーム」方式です。これは、参加者が毎月コーチと小グループに分かれ、内容の振り返りとディスカッションを行うというものです。このプログラムは、現在コーチ兼メンターとして活躍するワイズメン会員のドワイト・トムリンソムの積極的な参加も大きな力となっています。さらに、2ヶ月ごとに参加者全員がオンラインで集まり、専門家の講演を聴いたり、非公式のグループワークに参加したりすることで、結束力とネットワークの構築に貢献しています。



元国際ユース代表のドワイト・トムリンソムは、現在、チェンジエージェントプログラムのコーチの一人として活躍しています。

スタッフであれ、ボランティアであれ、私たちのチェンジエージェントは、地域および全国YMCAのガバナンス強化に尽力し、役職に就き、委員会を主導し、戦略的な方向性を策定し、子ども、ユース、そして家族のための革新的なプログラムの開発においてプロジェクトマネージャーや地域コーディネーターとして活動しています。彼らの存在は、若者がYMCAの未来であるだけでなく、現在でもあることを示しています。

第6期が進むにつれ、YMIの影響力は、あらゆる成功事例に表れています。私たちの支援は、可能性を現実へと変え、若いリーダーたちがビジョンを行動へと結びつけることを可能にします。こうしてYMIは、YMCA運動を強化するだけでなく、若者のエンパワーメントと世界中の、より強固なコミュニティの構築という使命を担う次世代のリーダーに投資しています。

2025年7月に開催されたチェンジエージェントプログラムの第6期生のバーチャルミーティング



ソーシャルメディアツール & インパクトコミュニケーション

コシー・マシュー 元 YMI ワールド編集長 (2015-24)



21世紀において、ソーシャルメディアほどコミュニケーションのあり方を大きく変革した革新は、ほとんどありません。もともと人々を繋ぐために構築されたソーシャルメディアプラットフォームは、今や社会変革のための強力なツールへと進化しました。平等と正義の促進から、気候変動、教育、公衆衛生に関する意識向上まで、ソーシャルメディアは、インパクト・コミュニケーション、つまりコミュニケーションを通して社会や環境への貢献を生み出す実践に革命をもたらしました。本稿では、世界的な事例を用いて、ソーシャルメディアがインパクト・コミュニケーションにどのような影響を与えているかを探り、実践的なフレームワークを提案します。

ソーシャルメディア時代のインパクトコミュニケーションを理解する

インパクト・コミュニケーションとは、重要な社会問題に対する意識向上、人々の態度変革、あるいは行動喚起を目的とした戦略的な取り組みを指します。従来、こうしたコミュニケーションは、テレビ、ラジオ、印刷物、そして草の根活動に依存していました。ソーシャルメディアは、スピード、双方向性、拡散性、そしてバイラル性といった要素をこのモデルに導入し、この状況を一変させました。Twitter (現X)、Instagram、TikTok、YouTube、Facebookといったプラットフォームは、個人や組織が最小限のコストとかつてない俊敏性で、数百万人にリーチすることを可能にしました。

インパクトコミュニケーションにおけるソーシャルメディアの本質

- 双方向コミュニケーション - コミュニティは、メッセージを受信するだけでなく、意見を表明できます。
- ネットワーク効果 - メッセージがコミュニティや国境を越えて伝わることを可能にします。
- 感情的な共鳴 - 視覚的なストーリーテリング、個人的な物語、インフルエンサー主導の運動を通じて影響力を伝えます。



インパクトコミュニケーションにおけるソーシャルメディアの利点

- 費用対効果の高いリーチ: キャンペーンは自然に広まり、マーケティングコストを削減できます。
- 包括性とアクセシビリティ: 疎外された声が従来のメディアのゲートキーピングを回避できます。
- リアルタイムのフィードバックと参加: 視聴者は、コメントしたり、共有したり、投票したり、自分でコンテンツを作成したりできます。
- 透明性と説明責任: ソーシャルメディアにより監視と監視活動が可能になります。
- 大規模なストーリーテリング: 個人的なストーリーは、感情的なつながりと行動の変化を促進します。

課題と倫理的配慮

ソーシャルメディアには、その利点にもかかわらず、リスクも伴います。

- 誤情報: 偽ニュースや誤解を招くコンテンツは、重大なキャンペーンを台無しにする可能性があります。
- パフォーマンス型活動主義: 行動を伴わない「ハッシュタグ活動主義」は努力の効果を薄めてしまう可能性があります。
- 燃え尽き症候群と拡散圧力: クリエイターや活動家は、コンテンツを絶えず生み出さなければならないというプレッシャーに悩まされることがよくあります。
- プライバシーとデータ利用: ターゲティングとアルゴリズムの偏りにより、一部のコミュニティがさらに疎外される可能性があります。
- 情熱と戦略を融合させた思慮深いアプローチが不可欠です。

結論

ソーシャルメディアは、インパクト・コミュニケーションを民主化し、携帯電話を持つ誰もが変化を訴えることができるようになりました。国境を越えた連帯を可能にし、声なき人々に声を与え、機関に責任を負わせる力も持ちます。しかし、その真の力は、単に増幅させるだけでなく、動員すること、つまりオンラインでの勢いが現実世界の変化へと繋がることにあります。

ソーシャルメディアが進化を続けるにつれ、私たちの戦略も進化しなければなりません。インパクトコミュニケーションの未来は、機敏で、誠実で、データに精通し、そして何よりも真実と正義にコミットする人々の手に委ねられるでしょう。草の根活動家、非営利団体、あるいは一般市民であっても、あなたの声は重要です。そして、ソーシャルメディアを責任を持って活用すれば、その声はこれまで以上に大きく響き渡るでしょう。

世界的な事例：世界を動かしたキャンペーン

1. #BlackLivesMatter（米国および世界）：2013年に米国における警察の暴力と人種差別への抗議として始まった#BlackLivesMatter運動は、ハッシュタグがいかに世界的なキャンペーンへと発展するかを最もよく示しています。2020年のジョージ・フロイドの死は、この運動を再燃させ、大陸を横断する抗議運動を引き起こしました。Instagramの投稿が連帯感を示すかのようにユーザーのフィードに溢れかえる一方で、TikTokユーザーは、人種問題への意識を高めるためのダンスや詩のチャレンジをバイラルで作成し、インフルエンサーは資金を調達し、視聴者に啓蒙活動を行い、企業や政府に圧力をかけました。

はじめに：変革者のためのガイド

1. 目的と対象を明確にする：取り上げたい問題と、誰に語りかけるのかを明確にしましょう。プラットフォームやトーンは、対象とするユーザー層によって異なります。
2. 適切なプラットフォームを選ぶ：あらゆるプラットフォームに展開しようとする必要はありません。対象者が最も活発に活動している1~2つのプラットフォームに注力しましょう。
3. コンテンツ戦略を策定する：画像、ストーリー、リール、ライブなど、さまざまな形式を組み合わせます。コンテンツの柱としては、教育、個人の体験談、提言活動、コミュニティ参加などが考えられます。
4. ハッシュタグと協働を活用する：キャンペーン専用のハッシュタグを作成します。インフルエンサー、NGO、市民のストーリーテラーと連携し、リーチを拡大します。
5. 単に配信するだけでなく、積極的に参加する：コメントに返信したり、ユーザーが作成したコンテンツを再共有したり、ゲストとライブ配信したりして、会話を盛り上げましょう。
6. 測定と最適化：いいね、シェア、保存、リンクのクリック、寄付額、登録数など、効果的な施策をトラッキングしましょう。Meta Insights、Sprout Social、Google Analyticsなどのツールを活用しましょう。

アフリカ地域ニュース

ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者

2025年8月29日 – 若い学習者を刺激する

キトゥイ・ワイズユースクラブは、カビシ小学校に喜びと感動をもたらしました。メンバーは、子供たちと遊んだり、食事を共にしたり、子供たちが勉学で優秀な成績を追求するよう励ましたりして一日を過ごしました。

2025年9月1日 – IBC

団結の精神を掲げ、アフリカ南東区キトウェ・ワイズメンズクラブとインド南西区アナンタプリ・ワイズメンズクラブは、IBCクラブの関係を結びました。

2025年9月5日 – YMCAキベラへの支援

ナイロビ・ワイズメンズクラブは、キベラYMCAに2,833米ドル相当の寛大な寄付を行い、引き続き効果的な活動を継続しました。クラブは、石鹸、女子用生理用品、インナーウェア、食料品を提供し、同校の生徒445名全員に支援を届けました。



2025年9月6日 - 区のユース代表選挙

アフリカ南東区の次期区ユース代表選挙（RYRE）が行われ、アルーシャ・ワイズユースクラブのウィルブロディ・アルポナリーが選出されました。



2025年9月6日 – 生計のエンパワーメント

アルーシャ・ワイズメンクラブは、ラハ・ビバレッジズ社と共同で、かつて家族を養うために餅を売っていた粘り強い未亡人、ママ・アミナを支援しました。病気の夫の介護中に仕事を失った彼女は、クラブから機器や物資を受け取り、生計を立て直す力を得ました。



2025年9月13日 – 健康と環境の育成

キスム・ワイズメンクラブは、サイモン・ニューベリー・スクールの生徒たちに生理用品を寄付することで、生徒たちの生活を明るくしました。また、学校関係者と協力して植樹活動を行い、生徒たちの健康と環境の保全に貢献しました。



アジア太平洋地域ニュース

利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者

シンガポール



シンガポールアルファクラブ、シンガポールベータ・クラブおよびYMCAリーダーによる合同会議が、国際会長エドワード・オン、直前国際会長A・シャナヴァスカーン、国際書記長ジョース・ヴァルギースのシンガポール訪問を記念して開催されました。

香港



2025年9月28日、ワイズメンズクラブ国際協会香港部は、大澳の高齢者施設を訪れ、中秋節を共に祝いました。ゲーム、広東オペラの歌唱、アフタヌーンティー、プレゼントの配布など、充実した活動が行われました。地域奉仕活動の後には、親睦を深める集いが開かれ、豪華なディナーだけでなく、有名な大澳ランタンフェスティバルの見学も行われました。

タイ



9月23日、チェンマイ・ワイズメンズクラブは、サオヒンYMCA、チェンマイYMCA、そしてパートナー団体と協力し、タイ・チェンマイ県チョムトン郡で河川敷の清掃活動を行いました。地域住民、学校、市場、そして行政関係者から、多大な協力がありました。この活動は、大成功を収め、特に近隣マーケット在住の会員は、引き続き自主的に清掃活動を行い、廃棄物削減に尽力していることが特筆に値します。

ヨーロッパ地域ニュース

ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者

IBC締結20周年



9月5日から7日の週末、ノルウェーのソラワイズメンズクラブとデンマークのヘアニングのヘデンスワイズメンズクラブは、IBC20周年を祝いました。祝賀行事では、中央ユトランド地方を巡る小旅行、YMCAでの祝賀ディナー、そしてフレデンス教会での礼拝と親睦会が行われました。長年にわたり、両クラブは、互いの国を何度も訪問し、YMI運動の国際的な親睦を体験し、国境を越えた友情を築き、時とともにその絆は深まっています。

フェアヒューセット：ウェルビーイングに焦点を当てたユースの集いの場

フェアヒューセット（「フェアハウス」）は、2025/26年度のデンマーク区プロジェクトに選ばれました。KFUM（デンマークYMCA）とKFUK（デンマークYWCA）とのパートナーシップにより開発されたフェアヒューセットは、若者のウェルビーイングを促進するため、デンマークの3都市に開設されます。このプロジェクトは、放課後、夜間、週末、そして休暇中にユースが集える、アルコールを飲まない集会所を提供します。



若者自身が、料理や音楽からボードゲームやスポーツに至るまで、様々な活動を通して、安全で、誰もが参加でき、自分たちの興味に合った環境を維持できるよう、活動内容の策定に携わります。スウェーデンとノルウェーにおける同様の取り組みの経験を基に、フェアヒューセットは、実績のあるモデルとワイズメンズクラブ国際協会の価値観を融合させています。この取り組みは、尊敬、帰属意識、そしてすべての若者が価値ある存在であるという信念を重視するキリスト教の理念に基づいています。アルコール中心の社交生活に代わる選択肢を提供することで、フェアヒューセットは、コミュニティを強化し、健全な人間関係を育み、デンマークのユースにとって有意義な出会いの場となるでしょう。



デンマーク、ルンデルスコフ・ワイズメンズクラブは、地元コミュニティで中古品マーケットを開催し、50,500デンマーククローネの寄付金を集めました。クラブは、11月1日にもマーケットを開催する予定です。

ズウォレ・Yサービスクラブ：YMCA学生交換プログラムを通じて文化の架け橋を築く

オランダのズウォレ・Yサービスクラブは、設立以来、YMCA学生交換プログラム（SEP）を支援しており、オランダ最大級の教育機関の一つであるヴィンデスハイム応用科学大学の学生に、提携YMCAでの実習を通して国際経験を積む機会を提供しています。社会福祉と体育に重点を置いたこのプログラムは、学生に貴重なスキルを身につけさせると同時に、受け入れ先のYMCAに新たな活力と異文化交流をもたらします。

2025年11月、ズウォレクラブのメンバーであるマーティン・ヴォスジャン次期ヨーロッパ地域会長が、BF助成金の支援を受けてチリとブラジルを訪問し、SEPプログラムを視察します。



滞在中、彼は、地元のYMCAクラブやパートナーと交流し、関係をさらに深め、協力関係を育む機会を得ることになります。SEPとズウォレクラブは現在、国境や文化を越えて、より広範な影響とYMIとYMCAの関係強化の機会を拡大するために、新たなYMCAパートナーを募集しています。

インド地域ニュース

ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者

トラヴァンコール中央区 ワイズメネット 区会議開催

ワイズメネット区会議には、170名のワイズメネット会員が参加しました。チトラ・ヴィノドのコーディネーターによるこのイベントは、マメン・オメンインド地域次期会長により開会され、地域ワイズメネット・コーディネーターのシンドゥ・トーマスを主賓として出席しました。ワイズウィメンとなったワイズメネット会員36名と、ワイズウィメンを維持したワイズメンズクラブ15クラブが表彰されました。ハイライトとして、CTR（セントラル・トラヴァンコール）クイーン・コンテスト、クラブ・プロジェクト（MISSY 2.0）を支援するオークション、文化プログラム、そして活気あふれるオナム祭などが行われました。



ワイズ・スカラープロジェクト、インド中西区に1万冊のノートを配布

ワイズ・スカラープロジェクトの第1段階として、インド中西区第1ゾーンは、エルナクラム地区とイドゥッキ地区の恵まれない生徒たちに1万冊のノートが無事配布しました。この取り組みは、第1部と第2部のワイズメンズクラブの支援を受けて実施され、ノートには、ワイズメンズのロゴと主要な組織情報が記載されていました。

このノートは、「あなたの健康はあなたの財産」というスローガンの下、健康意識と薬物乱用防止に関する意識啓発も促進しました。このプロジェクトは、学生を支援しただけでなく、組織にとって意義深いイメージ構築の取り組みとしても役に立ちました。



インド中西区で献血キャンプが成功裏に開催

インド中西区は、2025年7月26日、インド医師会（IMA）と協力し、コーチンのIMA血液バンクにて地域献血キャンプを成功裏に開催しました。第1部と第2部から60名以上のご家族が参加し、30名が献血に協力しました。

この崇高な行為は、赤血球、血漿、血小板などの必須の血液成分を供給することで、緊急事態、慢性疾患、複雑な医療処置に直面している100人以上の患者に重要なライフラインを提供することになります。



中東区で屋内クリケット大会を主催

9月7日、シャルジャのベースライン・スポーツ・アカデミーで、区屋内クリケット大会が初めて開催されました。ドバイ、シャルジャ、フジャイラ、アル・アインを含むUAE全土から8つのクラブが大会に参加し、ドバイ・フレンズ・ワイズメンズクラブが優勝、シャルジャ・ワイズメンズクラブが準優勝を果たしました。



南中央インド区でオルマイロル・オナムのお祝いを通して喜びを届けましょう

「オルマイロル・オナム」のお祝い:

社会奉仕活動の一日。ワイズメンズクラブ国際協会バンガロール第1部の愛情、思いやり、そして分かち合いの精神は、シッダルガタ・ミッション・ホステルの恵まれない子どもたちに笑顔と喜びをもたらしました。バンガロール第1部は、シッダルガタ・ミッション・ホステルの30人の子どもたちに毛布や自動湯沸し器、そして思い出に残る体験を提供し、オナム祭を祝いました。

「オルマイロル・オナム」と題されたこの祝賀行事は、アベイ・ジョン部長、インド地域CS事業主任のディネシュ・マティアス、区書記のジヌ・ジョージの支援により実現しました。



南インド区における「愛の奉仕」

マドラス部の4つのワイズメンズクラブ（チェンナイ・カラパッカム、マドラス・コダンバッカム、アナナガル西、チェンナイ北）は、レッドヒルズにある1歳から26歳までの子どもと若者のための養護施設「アナンダ・イラム」で、意義深い奉仕キャンプを共同で開催しました。チームは、区理事のV・A・N・バブと次期区理事のM・K・ウンニに見守られながら、入居者に栄養価の高い食事、おもちゃ、生理用品を提供しました。この影響力のある取り組みは、マドラス部長のサンディーブ・ラビンドランがコーディネートしました。



南インド区での奉仕とエンパワメントで独立記念日を祝う



YMIの誇りある「ダイヤモンドクラブ」である南中央部 カライクディ・ワイズメンズクラブは、インドの独立79周年を記念して、困窮している女性にミシンを贈呈しました。これにより、女性は持続可能な収入源を確保し、自立を高めることができました。

西部のコインバトル・ワイズメンズクラブは、毎週1食の食事を提供し、困っている人々に温かさと思いやりを届けるという恒久的なプロジェクトを継続しています。この取り組みの一環として、次期副区理事セルバと献身的なチームは、知的障がい者のための施設「リトルハーツ」の入居者に栄養たっぷりの食事を提供し、インドの79回目の独立記念日を共に祝いました。

「若者のリズム」キャンプが南西インド区を活気づける



南西インド区第1部が主催する「リズム・オブ・ユース」キャンプが、2025年9月14日、マータンダム・YMIホールにて、元副区理事のS・クリストファーによって開会されました。ACONクジトゥライ・ユース・ワイズメンズクラブ会員である部ユースコーディネーターのサラングが、議長を務めました。

キャンプには、ACONクジトゥライ・ユース、ACONクジトゥライ・ユース・グリッターズ、ナンチル・プリンス・ユース、クジトゥライ・ジュネス、クジトゥライ・シグマ・ユースの5つのクラブから、活気に満ちた熱意あふれる若者49名が参加しました。部長のセオダー・E・ジョンが主賓を務めました。ゲストスピーカーとして、元区理事でインド地域のウェブマスターでもあるアジット・バブが、ワイズメンズクラブ国際協会の運動に関する貴重な知見を提供し、参加者の士気をさらに高め、キャンプにさらなる弾みをつけました。

西インド区における成長、包摂性、そして影響力

第1四半期には、西インド区では12の新規クラブのチャーターが行われ、会員数が過去最高の増加を記録しました。この区の腎臓ケアプロジェクトは、A・シャナヴァスカーン直前国際会長によって開始され、患者に透析キットを提供し、今年度は2,000件の透析セッションを目標としています。



韓国地域ニュース

チュン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者

第8回韓国地域大会は、環境保全と親睦に焦点を当てて

第8回韓国地域大会は、「共に！より良い世界と環境を築くために」というスローガンの下、慶尚南道昌原コンベンションセンターで開催されました。2日間にわたる大会には、韓国全土から約800名の会員が参加しました。

9月19日には政策フォーラムが開催され、エドワード・オン国際会長が「戦略2032」を推進するための「フォーカス2.4」行動計画を発表しました。ジョース・ヴァルギース国際書記長がグローバルYMIの最新情報を発表し、100カ国2,500都市に展開するという目標を強調しました。A・シャナヴァスカン直前国際会長は、激励の言葉を述べ、11名の韓国地域の理事が今年の計画を概説しました。

9月20日の朝、参加者は、ラムサール条約湿地で環境啓発活動に集まりました。公式開会式では、パク・チャサン地域会長が参加者を歓迎し、この国際的に保護されている湿地を有する昌原市の重要性を強調しました。

プログラムは、引き続き、全体会議、文化紹介、そして「ロールバック・マラリア」プロジェクト支援のための募金活動へと続きました。基調講演として、ソウル大学のキム・ビョンジョ教授による「古典文学に学ぶリーダーシップと奉仕の精神」、韓国情報社会振興院のキム・ドギョン理事長による「AI時代のワイズメン、AIに問いかける」が行われました。また、麗水鎮南クラブ（元クラブ会長：チョ・ホグム）、光州西区（元部長：カン・スンレ）、そしてIBC地域事業主任のイム・ハンテによるベストプラクティス発表が行われました。

この大会では、韓国地域の今年の環境重点分野に効果的にハイライトが当てられ、プログラム全体を通じて保全活動が統合され、ラムサール湿地の保護と保全が強調されました。





エドワード・オン 国際会長、韓国地域大会にて



パク・チャサン地域会長が韓国地域大会の参加者を歓迎



Y's Men International 8th Korea Area Convention
와이즈멘 제8차 한국지
 日: 2025년 09월 20일(토) ▶ 장소: 창원컨벤션센터 3층

エドワード・オン国際会長、A・シャナヴァスカン直前国際会長、ジョー・ス・ヴァルギース国際書記長そして韓国地域のワイズリーダーたち

韓国地域に新しいクラブが誕生

韓国地域は、ハン・イルウク元地域会長による 100 日会員増強キャンペーンのソーシャルメディアでの宣伝の好結果として2つの新しいクラブが誕生し、会員の強化が続いています。

全州ハナクラブは、萬山クラブの後援を受け、2025年7月25日に全北区で設立されました。大田SASAクラブは、大田イマニュエルクラブの後援を受け、2025年9月18日に韓国西区で設立されました。



全州ハナクラブ



大田SASAクラブ

米国地域ニュース

メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者

サンドアンドシーYサービスクラブがトビー・ウェルズ YMCA 20周年記念式典をサポート



8月23日（土）、新しく発足したサンドアンドシーYサービスクラブは、YMCAメンズ・パースペクティブ・グループおよびYサーフキャンプのスタッフと協力し、トビー・ウェルズYMCAで400名以上の参加者に食事を提供しました。このイベントは、同YMCAの20周年を記念し、20年間にわたる地域密着型のプログラムと意義深い貢献を祝うだけでなく、新クラブの特徴である奉仕の精神を示す機会にもなりました。

サンドアンドシーYサービスクラブは、社会貢献の方法を模索していたYMCAスタッフのジェリー・クワセクがオンラインでYMI1米国地域を発見し、直前地域会長のダグ・ジョーンズとつながったことに端を発し、1年間の計画とメンバー募集を経て、2025年6月に正式に設立されました。1年かけて、新しいクラブの基盤が築かれました。トビー・ウェルズYMCAでの記念式典で、ジェリーはダラー・フォー・スカラズの受賞者として表彰され、助成金を使って障がい者向け水泳インストラクターのトレーニングと資格取得をしました。ジェリーは、また、ワイズメンズ・パースペクティブプログラムの創設者でもあります。記念式典では、YMCAの20年間の奉仕を称えるだけでなく、YMCAとワイズメンズクラブ国際協会のパートナーシップが組織と地域社会の両方にどのように貢献しているかを強調しました。

米国地域が年次リーダーシップ研修を開催

2025年9月14日、米国地域は、理事、区書記、区会計を対象とした年次オンライン研修会を開催しました。全米各地の代表者がこの重要なイベントに参加しました。研修会は、地域会長ジョセフ・カンジャマラのメッセージで幕を開け、エリアの目標、現在の主題、そしてスローガンが概説されました。リーダーシップ研修および組織開発担当地域事業主任の元地域会長デビー・レドモンドは、理事の主要な役割と責任に焦点を当てたセッションを主導しました。彼女は、また、国際/地域ヒストリアンとしての活動や国際アーカイブへの関与から得た知見を共有しました。地域データベース管理者の元地域会長チャーリー・レドモンドは、会員データベースソフトウェアiMISの実践的な概要を説明し、効果的な使用と実装のための実用的なヒントを提供しました。

米国地域書記のナンシー・リビーは、区書記の重要な責務について詳しく説明しました。一方、米国地域CFOのデイビッド・ワークマンは、会費、経費精算、エリア財務方針といった財務に関する事項について説明しました。また、様々な寄付方法を紹介し、非営利団体が利用できる無料ソフトウェアツールや重要な税務コンプライアンスガイドラインについても説明しました。この年次研修は、米国地域全体のリーダーシップ強化において、引き続き重要なリソースとして機能しています。





国連デー

国連プロジェクト委員会のメンバーであるロイス・マラセリーが選定し、要約した、10月の主要な国連の記念日



ロイス・マラセリー
国連プロジェクト委員会
のメンバー

国際高齢者デー

高齢者が地域社会や社会に果たす貴重な貢献を認め、高齢化に伴う課題と機会に焦点を当て、あらゆる年齢層が包摂される社会の実現を訴えます。

10月1日

国際非暴力デー

マハトマ・ガンジーの誕生日を祝い、平和と非暴力を通して正義を貫いたガンジーの功績を称えます。社会と世界の調和への道として、非暴力の行動を推進します。

10月2日

世界教師の日（ユネスコ）

教師の権利と責任を認め、適切な研修、公正な労働条件、十分な報酬を提供する政府と教育制度の義務を強調します。

10月5日

国際ガールズデー

教育、平等、エンパワーメントを重視しながら、少女の権利を促進し、少女たちが直面する特有の課題に取り組めます。

10月11日

世界食料デー

適切で安全、かつ手頃な価格で栄養価の高い食料を享受する権利を基本的人権として強調します。すべての人が食料にアクセスできるようにすることで、より良い生活と持続可能な未来を実現します。

10月16日

国際貧困撲滅デー

貧困に苦しむ人々の闘いと努力を認め、貧困を人権侵害として強調し、極度の貧困を撲滅するための世界的な連帯を促進します。

10月17日

国際ケアとサポートの日

ジェンダー平等の実現と持続可能な社会の構築において、ケアとサポートの重要性を強調します。有償・無償を問わず、介護者の不可欠な役割を認識し、より強固なケアシステムの実現を訴えます。

10月29日

聖書とマーク・トウェイン！

ビリー・モルゴー - キリスト教強調国際事業主任

聖書は、読むことで人生と神について多くのことを学ぶことができるため、重要な書物です。私たちが神について知っていることは、イエスが教えてくださったことに基づいています。イエスは、旧約聖書で私たちが知る神とは異なる理解を持っていました。イエスは、神は、何よりもまず愛であると言いました。

聖書は、人間によって書かれたため、間違いがないわけではありません。人が触れるものには、間違いや誤解がないわけではありません。言語的な理由からも疑問が生じることがあります。翻訳の過程で、正確さや正確な意味が失われたり、薄められたりすることがよくあります。例えば、語彙の少ない言語では、特定のニュアンスを捉えきれない場合があります。同様に、翻訳者のアプローチ（保守派かリベラル派か）も、解釈に影響を与える可能性があります。聖書には、慎重な解釈を必要とする箇所が数多くあります。だからこそ、私たちは、牧師として訓練を受けるのです。

作家マーク・トウェインは、もう一つの重要な問題について言及しました。彼は、人々は聖書の中で理解できない難解な箇所ばかり注目しがちだと述べています。しかし、トウェインは異なる考えを持っており、「聖書の中で理解できない箇所に悩まされるのではなく、理解していても、それに応えようとすると非常に困難に感じることにこそ悩まされるのです」と述べたと伝えられています。

結局のところ、トウェインの洞察は、聖書の真の課題は単にそれを完全に理解することではなく、理解した真理に従って生きることにあることを私たちに思い出させてくれます。ワイズメンズクラブ国際協会のメンバーにとって、これは愛を行動に移すこと、つまり困っている人々に奉仕し、コミュニティを築き、イエス・キリストの教えに基づく組織の中核的価値観を体現することを意味します。



マーク・トウェイン

編集長から

YMI World に関するご意見やアイデアを共有するには、編集長にご連絡ください。

11月は、BF、iGo、STEPの強調月間です。

インパクトストーリーを投稿するには、以下をクリックしてください

締め切り：2025年10月15日

[編集長へ](#)